

## 4. 福井市の夜間景観における主な課題

空間全体に関する課題	<p><b>① 夜間景観に関する市民の関心を高める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福井らしい景観の形成に向けて、平成元年の「福井市都市景観基本計画・1989」の策定以降、様々な景観行政に取り組んできた結果、景観に対する市民や事業者の意識の高まりが見られる反面、関心のない人・低い人が依然として多く見られます。</li> <li>このような状況の中、夜間景観についても同様な傾向にあるため、今後さらに市民や事業者に対して夜間景観への関心を高めていく必要があります。</li> </ul> <p><b>② 安全・安心な暮らしを支える光の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住宅地や集落では防犯灯の設置を行っていますが、住宅等のない区間、大規模な施設や空地がある場所では防犯灯は設置されていません。夜間における真っ暗な状況は、犯罪や事故発生の危険性が高まることから、安全で安心に暮らせる環境を地域が一体となって創出することが重要です。</li> <li>光による生態系や生活・交通環境などへの影響を考慮する必要があるとともに、特に近年では、地球温暖化などの環境問題の観点から省エネルギー対策が重要視されています。</li> </ul>
主に公共空間に関する課題	<p><b>③ 照明環境の多様さと調和</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夜間景観の整備・演出に関する明確な方針や指針がなく、場所ごとに整備を行っており、光源の光色などが不揃いで、路線や境界に統一感・連続性がなく、地域の特徴を感じ取ることができない、歩きたい気持ちにさせない状況になっています。</li> <li>また、老朽化あるいは経年により退色・剥色した照明器具は、昼間における景観を損ねる要因にもなりかねません。</li> </ul> <p><b>④ 福井固有の景観資源の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福井城址や足羽川、足羽山などは福井市を代表する重要な景観資源であり、魅力あるまちづくりを進めるうえでも重要な要素ですが、効果的にライティングされていない、投光の方法が不適切など、夜間における活用が低い状況にあります。</li> <li>養浩館庭園や一乗谷朝倉氏遺跡などでは、市民参画のもとにライトアップやイルミネーション等が行われており、地域活性化や地域に対する愛着心の醸成などに寄与しています。今後ともこれらの取り組みが継続され、他の地区へと発展していくよう、意識啓発や支援に努めていく必要があります。(※セミパブリック空間の課題と共通)</li> </ul> <p><b>⑤ 夜間景観を楽しむ場所の創出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地形的条件から夜間景観を楽しむ（眺望する）場所は限られていますが、それらの場所が視点場として有効に整備されていません。</li> <li>福井都心地区では、夜間景観を楽しませるための仕掛けづくりが不足しています。</li> </ul>

主に私的空間に関する課題	<p><b>⑥ 夜間景観を考慮した建築物等のデザイン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築物については、窓等の内側から発せられる光を活かすとともに、光を当てた際に陰影ができるよう外構に変化をもたせるなど、魅力ある夜間景観の形成にも配慮してデザインすることが重要です。</li> <li>・特に商業空間においては、ショーウィンドーや店先からの光も重要ですが、夜間の演出方法に魅力が感じられない、閉店や消灯時間が早いなど、商業空間全体として夜間景観への配慮や夜間の賑わい性に欠ける面があります。</li> <li>・また、市役所や文化施設などの公共公益施設は、多くの人が集まる場所であるとともに、民間建築物を誘導する先導役としても良好にデザインすることが必要です。</li> </ul> <p><b>⑦ 周辺環境と調和する照明環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境や歴史的環境に優れた場所、閑静な住宅地の周辺や集落地などにおいても過度な照明やライトアップが行われるなど、周辺環境への配慮が不足している場合が見られます。</li> <li>・また、屋外広告物については、投光を行うものや内照式のもの、ネオンサイン、近年では LED を用いたものが増えていますが、明るすぎるものや周囲への漏れ光が多いものなど、夜間景観への配慮に欠けたものが見られます。</li> <li>・過度に明るい照明やライトアップ、周囲への漏れ光などは、周辺の生活環境や都市活動、動植物の生息・生育に対して光害となる場合があります。</li> </ul>
主にパブリック空間に関する課題	<p><b>⑧ 市民、事業者、行政の協働・連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や事業者によるライトアップやイルミネーションなどの取り組みが行われていますが、それぞれが単発的であり、地域全体としての連続性や広がり、発展性に乏しい面があります。</li> <li>・夜間景観に関しては、明るければよいという傾向が全国的にも見られ、夜間景観を良好なものとするための光のデザインの仕方や取り組み方などに関する情報・知識が十分とは言えない状況にあります。</li> </ul> <p><b>⑨ 夜間における回遊性の創出（特に福井都心地区における課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井都心地区には、玄関口として再整備が進められている J R 福井駅周辺、福井城址や養浩館庭園などの歴史資源など、良好にライトアップされた建築物など、夜間景観を楽しむ上での資源となるものは点在しており、都心地区全体の夜間の魅力や賑わいを創出するためには、これらを効果的に結びつけることが重要となります。</li> <li>・しかし、舗装のグレードアップなどにより昼間は歩きたくなくなる雰囲気であっても、夜間になると歩きにくい通りや歩きたくないと感じる通りがあります。</li> <li>・また、主要な通りでは街路灯が整備されていますが、“一歩先へ”行ってみたくなくなる気持ちにせざるような仕掛けが不足しています。</li> <li>・特に裏通りなどは真っ暗な道もあり、安心して歩ける環境になっていない状況もあります。</li> </ul>